

■今月の特選句

2015年5月

下半身みなモザイクの蜃気楼

柳 紅生

「下半身モザイク」と書いて期待させておいて、実は「蜃気楼」の事でしたと肩透かしする技は巧み。「上半身モザイクはなし蜃気楼」。お粗末でした。

入選は事務の手違ひ受難節

下嶋四万歩

通知が四月一日に来たなら笑って済ませるが、友達に自慢の後の通知なら、今更訂正などは困難。「取り消しが忘れた頃にやってきた」。

浴剤でめぐる温泉春うらら

小林英昭

「パパ、温泉巡りしましょ」「いいね、いいね。入浴剤どれにしようか」「私達って何事も安上り。お正月は絵に描いた餅だし、夫婦喧嘩もその餅を焼く」。

踏むべからず色塗りたての芝桜

山下正純

この公園は、郷土出身の芸術家の作品を展示しています。芝桜はまだ乾いていません。ペンキ塗り立ての蛙は芥川龍之介の品です。

春筍埋蔵金を掘る気分

田村米生

プラス志向が大切。筍掘りも採掘と呼ぶ。この筍を売ったお金で宝籤を買うのさ。筍で億万長者も夢じゃない。鶏にも金の卵を産ませてみるか。

余所者と言はれる証雪解道

奥脇弘久

雪解道を歩くのが不得手で、南国出身と見破られた。お得意なもので勝負しましょう。素晴らしい俳句で勝負ですか。滑稽俳句協会の出身ですね。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- | | |
|--|-------|
| 詭弁言ふ上司胸張る春爛漫
・・・人のふり見てわが身をなおす | 土屋泰山 |
| 学びしを入試に全て捨てにけり
・・・すると浪人などはできない | 久我正明 |
| 手の内は読まれてをりし四月馬鹿
・・・それを知らずにデートの誘ひ | 井口夏子 |
| 討入りし者少数派とや義士祭
・・・命担保に名を売ったわけ | 金澤 健 |
| 九十九里浜の一里の春惜しむ
・・・一里を足して春を惜しむか | 飛田正勝 |
| 風止みて干物のごとし鯉幟
・・・一匹が一枚となり鯉幟 | 津田このみ |
| ふくらみ初めし乳房並びて卒業式
・・・来賓たちの視線を集め | 池田亮二 |
| 更衣着る物ばかり褒めらるる
・・・次回は襦袢を着て行くがええ | ひがし愛 |
| 春炬燵ドラマのデカになりきつて
・・・実は犯人炬燵に捕まる | 加藤 賢 |
| 鶯の鳴き声満つる和菓子店
・・・菓子が鳴くとは可笑屋さんよ | 飯塚ひろし |

風船を持って乗りたい体重計

・・・風船の重さがプラスされ

有吉堅二

うきうきと浮かび消えたるシャボン玉

・・・浮べばいつか沈むがさだめ

梅岡菊子

箆を掘る日忘れて盗られけり

・・・気付いた時は若竹のはず

岡野 満

■今月の滑稽句

アベノミクスご利益のなしめざし焼く 咲き満ちし花見に無情雨おんな 【佳作】 バレンタイン己に買いしチョコレート	青木輝子 青木輝子 青木輝子
雲合は昨日も今日も花曇 【佳作】 居並びて春日を呑むか淵の鯉 春空に搔き傷残し飛機二つ	青山桂一 青山桂一 青山桂一
大相撲観ている人の春衣装 花こぶし怒りは胸に収めけり 【佳作】 春雨は心を濡らす古シネマ	秋月裕子 秋月裕子 秋月裕子
残る鴨体重管理をし損ねて 【佳作】 猫恋の季節なれども人見知り 唐突にあらず周到鳥帰る	麻生やよひ 麻生やよひ 麻生やよひ
葱坊主伸びるだけ伸びぐらつきぬ 【佳作】 筍やくるむ新聞突き抜けぬ 春炬燵背の軟膏塗り難し 【佳作】 億ションのちらしを尻に花の宴 桜前線のらりくらりとやって来る	有富洋二 有富洋二 有富洋二 有吉堅二 有吉堅二
目に涙スギ花粉テロ空覆い 【佳作】 アルバイト茶髪振り振り神輿かな 夏草や小便小僧の夢のあと	栗倉健二 栗倉健二 栗倉健二
西行と花の下にて酒を酌み 【佳作】 手掴みで鶯餅を鳴かせけり 母親が前へ押し出す新入生	飯塚ひろし 飯塚ひろし 飯塚ひろし
【佳作】 ふたあけりゃ×点ばかり猫の恋 鶯の喜び上手ホホケキョ	井口夏子 井口夏子
【佳作】 万愚節きつねたぬきは真正直	池田亮二
【佳作】 落ちてなお銀に輝き木の葉髪 里山や多色パッチで春を待ち ブロッコリー裸に震え「早よ食べて」	伊藤慈秀 伊藤慈秀 伊藤慈秀
【佳作】 取りあへず鍋に白菜考へる 天空に届くとみせて凧落つる 風船や加藤登紀子の歌唄ふ	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一

【佳作】	春の夜昼の眠気を引きずりて 七十路や今も歌える卒業歌 可憐なる花名に変えたしいぬふぐり	井野ひろみ 井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	目借時お目目はすでにフェルマータ タンポポの綿毛かくまひ子猫の背 シャボン玉私の息が宙を舞ふ	上山美穂 上山美穂 上山美穂
【佳作】	お多福てふ蚕豆むぐや妻元気 まくなぎを尻尾で払ふ馬頭尊 ひつそりと紫蘭の咲いて知らん顔	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	辞書の字のぼやけてしまひ目借時 囀れりビルの谷間の国連旗	梅岡菊子 梅岡菊子
【佳作】	万愚節綺麗な嘘に出会ひたる 尊厳死はた安楽死桜餅 レム睡眠蛤は舌出してをり	越前春生 越前春生 越前春生
【佳作】	伝法な女将のうなじ花月夜 マドンナと相合傘や春埃	大澤酒仙奴 大澤酒仙奴
【佳作】	夜桜に負けじと妻の化粧かな 春風や馬脚あらわすエセ紳士	岡野 満 岡野 満
【佳作】	愛猫の恋の相手を見定めに 煽てればまだまだ揚る雲雀かな 春眠や子に従つて居る自分	小川鮎太 小川鮎太 小川鮎太
【佳作】	新幹線待つ間のホーム春疾風 欲ばって峠の遠見花疲れ	奥脇弘久 奥脇弘久
【佳作】	山笑ふ抱擁かたき道祖神 出勤の車中にかぶる化けの皮 悠然と塀の上ゆく孕み猫	笠 政人 笠 政人 笠 政人
【佳作】	蚕豆の花の目玉に睨まれる 竜のごと吹上げ谷の花吹雪 花散って話題は春の地震のこと	加藤澄子 加藤澄子 加藤澄子
【佳作】	地獄耳補聴器要らじ万愚節 ツとシの字書き分けて見せ入学す	加藤 賢 加藤 賢

	初孫や青春一杯の中学生 薄曇りの土手に菜の花万歩計	門屋 定 門屋 定 門屋 定
【佳作】	未だ咲かぬ一六桜天徳寺	
【佳作】	絶妙の間の悪さもて寒戻る 狼が来ても言えない四月馬鹿	金澤 健 金澤 健
	八十路哉記憶乃奥乃地久節 ホケチョケチョよき妻得んと猛練習	川島智子 川島智子 川島智子
【佳作】	三月や郵便年金最終回	
	ゴミ出しは自分の役目桃の花 永き日や医師の診察すぐ終わる	菅野あたる 菅野あたる 菅野あたる
【佳作】	草餅や酒呑めぬ身もまた楽し	
【佳作】	ブランコを押すスカートの開くまで 佐保姫の臍の辺りを分け入りぬ	久我正明 久我正明
	針千本飲ませ指切り花の陰 スキップの足のもつれて四月馬鹿	小泉花子 小泉花子 小泉花子
【佳作】	春疾風狂喜乱舞の濯ぎもの	
【佳作】	恋猫の凱旋門は塀の穴 寝たふりの山くすぐれば笑ひけり	小林英昭 小林英昭
	戦争を知らぬ議員の蟬しぐれ スマホなる穴にはまりて蟻地獄	酒井鹿洋 酒井鹿洋 酒井鹿洋
【佳作】	赤紙に無縁の首相萬愚節	
	白鳥に旅の無事をとウインクス ランドセル大きく見える泣き虫よ	佐藤義子 佐藤義子 佐藤義子
【佳作】	待ちわびて鳥のランデブー花蕾	
【佳作】	入学式母が気になる一年生 耕や泥踏み心地牛の糞	佐野萬里子 佐野萬里子 佐野萬里子
	疎遠なる友より電話県議選	
【佳作】	余寒なほ免震担保されたとて づかづかと自撮りの棒の花ちらし	下嶋四万歩 下嶋四万歩
	卒業子団旗の前に号泣す 校門に母降り切って入学児	白井道義 白井道義 白井道義
【佳作】	側溝の蓋が一步や春うらら	
【佳作】	前髪と耳もとそろえ春を待つ ストーブに黒いセーターシャツの上	鈴木哲也 鈴木哲也 鈴木哲也
	たまご肉一人ラーメン鍋の中	
	診断書杉山さんは花粉症 気疲れや場所取り終り花疲れ	高田敏男 高田敏男

【佳作】	新社員落ち着きすぎて遅刻かな	高田敏男
【佳作】	六十と書きて怪しむ春の宿 春の陽に鰐眠るまま佐田岬 春の風オープンカフェは柄になし	高田義之 高田義之 高田義之
【佳作】	春の野や座禅するもの踊るもの 彼の背はあまりに細し春疾風 大空の縄張り争い揚雲雀	高橋きのこ 高橋きのこ 高橋きのこ
【佳作】	夜桜のレースにのぞく月明かり 雨風も何のこれしき花盛り 乾杯の声花冷えの暗闇に	高橋マキコ 高橋マキコ 高橋マキコ
【佳作】	真っ先に春を感じる鼻の先 春雷や腰抜け膝に笑はれる	高橋素子 高橋素子
【佳作】	鬼瓦さくらふぶきにむせびけり 子らの声春の小川のさらさらと 亀のやう新入生のランドセル	田中章子 田中章子 田中章子
【佳作】	病室の金縛りあふ夜半の春 春の日の異人館巡るなりけり 花散るや釜ヶ崎暮らし始まる	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	耳に痛し株高ニュース耕せり 富民のみに三本の矢は初浸す ヒュルヒュルヒュルパンジー風に夢二の絵	田中早苗 田中早苗 田中早苗
【佳作】	鳥帰る嫌嫌帰る奴もをり 花疲れ癒す足湯に湯疲れす	田村米生 田村米生
【佳作】	薔薇よりも素敵と言ひてプロポーズ ばあちゃんはシルバー学園新入生	津田このみ 津田このみ
【佳作】	春電車影の踊ってアコーディオン 稜線の筋屹度して春の山	土屋泰山 土屋泰山
【佳作】	うぐひすの遠くて近き安房の在 花惜しみ命惜しみて歩きけり	飛田正勝 飛田正勝
	春カラス繁華街から朝帰り	中井 勇

	流行に先乗りします花粉症	中井 勇
【佳作】	あちこちを道路工事の彼岸かな	中井 勇
【佳作】	明易きもの一つに波の音 夏つばめ赤信号の上に止まる 若楓かくもあかるく戻(ひかげ)りて	永島董玉 永島董玉 永島董玉
【佳作】	晩酌にさしつかへても桜餅 亀鳴くてふうソツキ村に泊つるかな 逃げたがる風船を拉致独り者	新島里子 新島里子 新島里子
【佳作】	アネモネをモネが描けば真似できず サイネリア散るかしら散るでしょう 生け方は自由でござるフリージア	西をさむ 西をさむ 西をさむ
【佳作】	主婦りひっそり微笑むお雛様 母校いて球春いつもの百倍也 春めいて山お笑いの準備中	花岡直樹 花岡直樹 花岡直樹
【佳作】	老犬の乗る乳母車花堤 朝寝する企業戦士や退役す これよりは守銭奴となる五月かな	原田 曄 原田 曄 原田 曄
【佳作】	愛犬と揃ひのベスト万愚節 糞虫は切り紙あれば家作る	ひがし愛 ひがし愛
【佳作】	大藪君医大卒業してみしが 豆の花いつしか蝶に化けてをり 空つぼの頭の上をシャボン玉	久松久子 久松久子 久松久子
【佳作】	教科書のインクくんくん新学期 何もかも曖昧模糊や花曇 結局はお尻を濡らし磯遊	日根野聖子 日根野聖子 日根野聖子
【佳作】	逆さまのスカイツリーに花筏 千住から歩いてみよか春の路 子も見えて鳩の浮巢の母美人	平戸良治 平戸良治 平戸良治
【佳作】	瓶ごろごろ仁王ごろごろ夕桜 夜桜愛づ二次会バーの止り椅子 囀の昼をひきづり夜の屋台	藤岡蒼樹 藤岡蒼樹 藤岡蒼樹
【佳作】	春眠に終始あやふや昼休み 春眠し目覚まし時計進めとく かた仮名でエンジョイしてる花見かな	藤森荘吉 藤森荘吉 藤森荘吉
【佳作】	春嵐髪ふり乱しやって来る 桜咲く痩せきってゐる心にも	藤原セツ子 藤原セツ子

	鯉二匹お堀のさくら丸飲みに	藤原セツ子
【佳作】	朝ぼらけお試し鳴きか鶯よ うぐいすや風の寒さに声震え 雪を蹴りラストランかよ北斗星	細川岩男 細川岩男 細川岩男
	あの世では父母健在朧月 大学という名の所へ入学す 骨迄も大事にされる桜鯛	細川寛子 細川寛子 細川寛子
【佳作】	阿弥陀様照らして白しうば桜 匂ひつんつん薬味の野蒜採り 花の雲みどりの堤飾りたる	松井寿子 松井寿子 松井寿子
	三人官女一人の謀反壇の乱 かの家の雛の乱痴気騒ぎかな 逃水に水虫の足浸すべし	松井まさし 松井まさし 松井まさし
【佳作】	バトンガール五月の光集め行く すいとび一摘む手のごつく所作柔し 鯨の片方さくらの隠したる	三橋百笑 三橋百笑 三橋百笑
	子遍路の鈴走り行く沈下橋 園児らも善男善女仏生会 緑茶熱く飲みしがバレンタインの日	宮森 輝 宮森 輝 宮森 輝
【佳作】	花冷えやぐるりと剥ける茹で卵 古き良き時代の話花見酒 揚雲雀誰が打ち上げし狼煙かな	百千草 百千草 百千草
【佳作】	そよ風のくすぐり受けし花笑ふ 特別の花の精かも夜桜は 教科書に載らず露の侵犯	森岡香代子 森岡香代子 森岡香代子
	魂の抜けて軽々花の屑 ためぐちを先ず正さるる新社員 抜けにくいものでありけり春の風邪	八木 健 八木 健 八木 健
【佳作】	春の蝶石頭には目も呉れず 大気圏越えてはならぬ揚雲雀	谷澤紀男 谷澤紀男
【佳作】	閉経の妻のはつらつ目借り時 粗茶といふ新茶の玉露有り難く 出不精の卵の花腐し鳩居かな	八洲忙閑 八洲忙閑 八洲忙閑
【佳作】	春炬燵痒いところに手のとどき 島流しほどの離れに春の風邪	柳 紅生 柳 紅生
	窓外の揺れる柳にジャンプ猫 いぬふぐり踏みゆく二匹の犬なりし 春の雨猫も安堵かすやすやと	柳澤京子 柳澤京子 柳澤京子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	枝先に泉湧き出づ藤の花 菜の花や鄙に織りなす大じゆうたん	山下正純 山下正純
【佳作】	春眠し読経をBGMに園児 身も心も春の嵐に乱さるる 宿木に命を吸われ枯木かな	山本けい子 山本けい子 山本けい子
【佳作】	スイートピー男の声が買ひにけり 六歳の直立不動入学す 咲ききつて鉢に終るも桜かな	山本 賜 山本 賜 山本 賜
	裸婦像の凹みを探す雪解水	横山喜三郎